



たのしい企画展ですよ

博物館では、2月2日～3月31日に企画展「昭和のおもしろ道具 発明展」を開催します(P19参照)。私たちの身近で使われていたアイデア商品・発明グッズを取り上げた展覧会で、家庭でよく使われていた懐かしの道具から、知る人ぞ知るマニアックなモノまでいろいろ取りそろえました。展示品の一部を紹介します。

- ① ハエをおびきよせて捕まえるカラクリ器械「ハイトリック」
- ② 笛付きのおちよこ。お酒を飲みながらウグイスの鳴き声を出すことができる。宴会盛り上げ用の道具。手に油がつかない。
- ③ ポテトチップスをつまむ専用の道具。手に油がつかない。
- ④ 昔懐かしい、というか知らない人も多くなった計算尺。
- ⑤ 殺虫剤噴射機。昔はハエや蚊が多かった。



- ⑥ 電気熱爛機。寒い季節に重宝する。
- ⑦ リンゴ汁取り器。リンゴをすりおろす時に使う。
- ⑧ 手回し式の洗濯機。洗剤・衣服の水を入れて回した。
- ⑨ 麦茶冷やし。麦茶を筒に入れて、水につけて冷やす。
- ⑩ 有名な発明家のアイデアを元に作られたジャンピングシューズ。

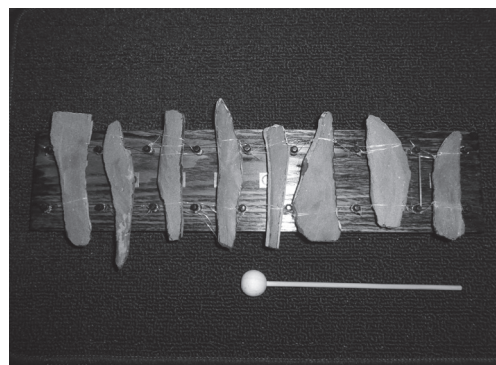
今回の展示品は、全国的に有名なホーロー看板・昭和グッズのコレクター佐溝力さんが、ほうぼうを探し回り集めたものです。昔の人のアイデアに感心したり、思わず笑ってしまったたり、たのしい企画展です。「あ、あれウチにもあった！」というモノがきっとあることでしょう。ぜひご覧ください。

石の音を奏でよう♪

楽器にはたくさん種類がありますが。中でも、鉄琴や木琴は、子どもの頃、一度は触れたことがあるのではないのでしょうか。2本のスティックを使って板を叩くと、鉄琴なら金属の音、木琴なら木の音が。どちらも、作った素材ならではのきれいな音がします。さらに、金属や木ではなく、石の板を使った石琴もあります。

生命の海科学館は、地球の誕生や生命の初期進化をテーマとしており、隕石や化石といった貴重な石をたくさん展示しています。そうした繋がりもあり、12月末から当館のプレシオ広場に、石琴を設置しています。叩いてみるとカーンと、高く神秘的な音がします。石の名前はサヌカイト。四国の讃岐地方で多く産出し、香川県の石にも指定されています。この名前を聞いて、ピンと来た方もいるのではないのでしょうか。そうです。サヌカイトの名称は見つかった讃岐地方に由来しており、別名「讃岐岩」とも呼ばれています。今から100年以上前、日本のナウマンゾウ発見者としても有名なドイツ人の地質学者ナウマンが見つけた、1891年に知人のヴァイシエンクが命名しました。

サヌカイトは古銅輝石安山岩という非常に硬い種類の石です。瀬戸内



サヌカイト製の石琴

海を中心に旧石器時代から弥生時代にかけて、石器の材料としても使われていました。今も誰かが演奏しているのでしょうか。プレシオ広場から、石琴の美しい音色が響いてきます。皆さんも石琴で石の音を奏でに科学館にお越しくださいね♪

エビ・カニ大好き！

永田理雄

生命の海科学館 ☎66♦1717